

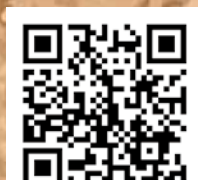
私保連とくしま



発行：徳島県私立保育園連盟
 発行人：会長 大和 忠広
 〒770-0943
 徳島市中昭和町1丁目2番地
 徳島県立総合福祉センター内
 tel. 088-654-4461
 fax. 088-656-1173
 印刷：グランド印刷(株)



第65回全国私立保育研究大会徳島大会 大会テーマ
子どもの笑顔∞まけまけいっぱい
 ~子どもが真ん中の社会を目指して~



令和5年6月14日~16日開催!!

徳島大会 PR 動画
 こちらのQRコードから
 ご覧下さい。

もくじ

徳島県未来創生文化部 次世代育成・青少年課 課長挨拶P2
県私保連 会長挨拶P2
部会報告P3
『子どもはチャレンジャー』P7
徳島県青年保育者連合会P8
いただきますを支えてP10
第65回全国私立保育研究大会徳島大会分科会事前打ち合わせを開催P11
高校ほか、学生の皆さんへP12



挨拶



徳島県未来創生文化部次世代育成・青少年課長 高島 浩規

私立保育園連盟の皆様方には、日頃より、本県の児童福祉行政、とりわけ保育行政の推進に多大な御尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

現在、年末年始にかけて新型コロナウイルス感染症の新規感染者数の増加傾向が続き、季節性インフルエンザとの同時流行も懸念されていることから、保育環境は依然として、気を緩めることのできない状況が続いております。

こうした中、皆様におかれましては、保育現場において、引き続き安心・安全な保育の提供に御尽力いただいております、重ねてお礼申し上げます。

県でも、現在の感染状況を踏まえ、児童等への感染を防止し、業務の継続を支援するため、保育施設の希望する職員に抗原定性検査キットを配布した「戦略的な検査」を引き続き実施しているところです。

今後もこの取組みを推進し、職場環境の改善に努めてまいります。

近年、児童福祉をとりまく環境は目まぐるしいスピードで変化しており、幼児教育・保育の無償化に加え、コロナ禍においては、これまでとは違った方法や取組みが求められています。

これを受け、県では、保育サービスの向上などに寄与する市町村の主体的な取組を支援する「交付金事業」の推進に加え、「保育士・保育所支援センター」の機能充実を図る等、保育人材の確保及び資質向上を図る施策を積極的に展開してまいりました。

その結果、令和4年4月1日時点の本県における待機児童数は、昨年と比較して23人減少し、県に記録が残る平成11年以降、初めて「待機児童ゼロ」を達成いたしました。

今後も、「待機児童ゼロ」を継続するために、引き続き、市町村や関係機関と緊密に連携しながら、計画的な「保育所等の整備」を図るとともに、「保育人材確保」に全力で取り組んで参ります。

乳幼児期は心身の発達や人格の形成に極めて重要な時期と言われております。皆様方におかれましては、「子どもの健やかな育ち」を実現するため、県の取組に対し、より一層の御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和4年度の終わりに思うこと



徳島県私立保育園連盟 会長 大和 忠広

今年の冬は、大変寒かったように思えますが、私だけの感情でしょうか。雪は、平地の海岸線にも積りました。その雪が二日も残ることはまれなことでした。雪国の方には大変申し訳ないことですが、南国育ちの私としては、楽しくもあり喜ばしくもある出来事でした。孫達は、雪合戦をしたり、雪だるまを作ったり、本当に楽しい時を過ごしていました。故郷の環境は、その地域に依って、こんなにも違うものかと思いました。それでも寒い冬は大変です。極寒というものに遭遇しない徳島育ちにとっては、寒いという言葉のとらえ方がそもそも違っているのでしょうか。風邪をひかないよう頑張っていきます。

さて、保育を取り巻く環境は、寒い冬などとはかけ離れて、本当に熱く世間を騒がせています。それは皆様も御承知のとおり、園児の置き去り死から、不適切保育と全国的な問題となっています。園児の置き去り死が起こったのがあの暑い夏の最中でした。取り残された園児がどれほど苦しかったことか想像に余りあるものと思います。家族の皆様が無念さも大変なものなのでしょう。あの当時、保育に携わるもの一人一人のその責任と集中力の無さを嘆きました。バスを持たない施設もその場面が、普段の保育に共通するものはないのかと、職員会、職員研修会で議題にしたことを思い出します。二度とこんな痛ましい事故を起こさないために、バスに警報機を付けるとか、乗り降りの人数を把握するとかといった話し合いが終結を見ないうちに、今度は、児童虐待の発生を見ました。このことは、全国ニュースとなり、子育て中の家族だけでなく、国民全体に、保育園をはじめとする就学前施設には、恒常的に児童虐待があるのではないかという中傷が、浴びせられました。私達保育を生業とするものは、この中傷に立ち向かわなければならないと感じました。しかしながら、複数の事例が発生する事象

の中で、言葉を失い、行動力も弱々しくなり、じっと耐えるしかなくなっていました。これ以上世間を騒がす虐待事例を出してはならないと感じていました。今では、児童虐待という言葉に代わり、難解な不適切保育という言葉となっています。就学前施設、とりわけ保育園・認定こども園への大変重い課題となったことは言うまでもありません。世間の不安を受け、私達は、不適切な保育をしないさせないことを誓い、毎日の保育に邁進しなければなりません。不適切でない保育は、完全な保育ではないということも分かったうえで、保育の質の向上を考えなければならないのです。一度失った信頼を取り戻す努力を忘れてはなりません。

全国大会まで数か月となりました。会員園全ての職員のご協力を得て準備を進めていますが、その開催の日は着実に迫ってきます。実行委員会では、全国各地から参加される仲間の皆様に、不安や不都合の起こらないよう、考えに考え抜いた方法でご接待しようと準備しています。小さな地方都市の徳島で、コロナ禍後の最初の参集型大会を計画してきました。理解しがたいことは、全国の仲間が、コロナ禍を過ごして大会に足を向けようと思っているのか、また、コロナ禍の時のように、参集しなくても、オンラインで良いと判断しているのか、解らないのです。寒い冬を乗り越えて、フキノトウの咲くまだ少し寒い春に、飛び出してくれるのか、桜の花が咲き誇る本格的な春爛漫まで、待とうとしているのか疑問であり、不安であり、解らないのです。どうあっても、私達徳島県私立保育園連盟の仲間は、スクラムを組んで前に進むしかないので。きっと良い結果に出会えると信じて、大会のそれぞれの持ち場をみんなで片づけて、形にしていくなかで、令和5年度は、全国大会ありきでの年で始まり大会を形付ける年として、自信と和を育む年にしたいと思います。反省は、最後に物事が終わってからにしましょう。歓声は、みんなの苦労のためにあげましょう。



部 会 報 告

調 査 部

齋賀 敬子

令和4年度後半の調査部会の報告をいたします。8月に第2回目の部会を予定していましたが、感染が拡大しつつあった時期もあり、中止とし、アンケートの集計作業を進めるため、役員会を行いました。12月22日には、調査部会を県立総合福祉センターで開催する事が出来、皆様から集められたアンケートの集計結果を基に人材確保や育成・定着に関して久しぶりに部員の方々と顔を合わせて活発な意見を交換する事が出来ました。次の日は、徳島でも大雪で警報が出るほどだったので開催出来た事に安堵しました。アンケートの結果を考察し、まとめると保育士が定着できるための組織を作るには、自園の保育士の特徴をしっかりと把握する事、それぞれの力が十分発揮出来、やりがいをもって仕事をこなせるよう人員配置や教育制度等の支援を行う事、コミュニケーションがとりやすく風通しの良い職場環境を構築する事など、各施設で取り組みされている事をうかがう事が出来ました。

コロナ禍になり、保育士の仕事の業務が増え、ストレスが多く、不適切な保育など報道されると敬遠される職業になり、保育士不足になるのではと心配になります。

今回の調査報告が各施設の人材確保、定着の参考にいただき、リーダーである皆様のより良い職場づくりの一助になれば幸いです。

調査にご協力いただいた方々、関係者の皆様、ありがとうございました。

今後も調査部員一同、力を合わせて調査、研究に努めたいと思いますのでご意見、ご要望がございましたら調査部までお知らせくださいますようお願いいたします。
(さくら保育園)



保育研修部

名護 仁美

今年度の保育研修部の活動は、例年同様、部会及び研修会の開催と全国研修部長会議への出席になります。部会については、年4回を計画しておりましたが、3回の開催になりました。ウイズコロナからアフターコロナに向けて生活の仕方、活動や行事の持ち方など考えていく時期です。今後は、会員皆様の課題や学びたい内容をしっかり捉えた全体研修会が企画開催でき、なおかつ部員相互に学び合える部会が開催できることが求められています。

部会では必ず情報交換の時間を設け、園や地域で取り組んでいる活動を報告し合ったり、園運営や保育の課題について話し合ったりしました。話題は、やはりコロナ禍における園運営の在り方が中心になりました。また、園長としての危機管理能力や人材を育成する力量に関しての話題では、共感しつつ模索するという状況でしたが、部員同士がポジティブに情報交換しあうという空間が、とても居心地の良い場となっていることに充実感を覚えました。こんな時間を持つことこそが大切であり必要なのだと気づかされました。この情報交換から出された課題から、12月の全体研修会が企画、開催されました。

12月22日に鳴門教育大学教職大学院教授の佐々木晃先生を講師に迎えて「ピンチだからこそ楽しむ園運営のマネジメント」のテーマでのご講演でした。保育のプロ集団として成長し続けるためには、一人一人の強みを活かす人材育成こそ、園長として最大限努力しなければならない責務であるをご指導いただきました。また、11月17日に第65回全国私立保育研究大会徳島大会分科会事前打ち合わせ会において「子どもの笑顔∞まけまけいっぱい」のテーマで、鳴門教育大学教職大学院の湯地宏樹教授よりご講演いただきました。全体研修会として開催し、45名がオンラインで参加しました。新任保育士研修会は、前年度分を延期開催し、5月23日に城南保育園園長の児嶋雅典先生が講師として「子どもと保育をどう考えるか」というテーマで語りかけ、ご指導いただきました。現場経験が浅いがために不安に感じていることが、自信に変わるそんなご講話でした。44名が参加しました。3月11日には今年度の新任保育士研修会は全会員施設を対象に拡大して開催し、論田ひまわり保育園園長の濱本富美子先生とすみれキッズ園長の大石正人先生が講師としてご指導いただきました。

2月7日には全国研修部長会議に参加しました。保育研修部は調査部とともに分科会班として大会運営を担います。大会の成功に向けて、分科会の運営に携わる班員として、各自担当する役割が十分果たせるよう積極的に取り組んでいきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。（四国大学附属西富田こども園）

総務部

松下 直弘

本年もよろしく願いいたします。いよいよと言いますか全国大会の開催年を迎えました。この号が届くころには3カ月を切っているかもしれません。まだまだこれからですが、大会本部長・副本部長をはじめ、実行委員長・副実行委員長、実行委員の皆様、ご苦勞様です。徳島大会は延期からのスタートとなったため長い道のりでした。「モチベーションの維持」が課題となりましたが、これで3分の2は終えたのではないのでしょうか？話は変わり総務部会ですが、5月・6月・12月開催しました。また、11月には全国事業部長会議に参加しました。全国大会のアピールがあったため、会長・副会長・実行委員長・副実行委員長・私と5名で出席しました。総務部員は私保連理事や大会実行委員と兼任しているためなかなか開催することができませんが、集まれば集まったで和気あいあいと語り合いが始まります。これから予算・決算理事会や各補助金・処遇改善実績報告、人事など大変な業務が待っています。そして6月には全国大会へと続きます。体調など崩されませんよう祈念するとともに、

ワンダーブックの保育用品

世界文化社販売株式会社

〒770-0802 徳島市吉野本町3丁目16番地2
TEL(088)653-7607
FAX(088)653-7874

Gakken すべては子どもたちの笑顔のために

(株)学研エリアマーケット徳島営業所

☎770-0046 徳島市鮎喰町1丁目24番3

Tel : 088-638-0017

Fax : 088-638-0019



安全な保育現場となりますよう、いろいろと考えていますので、その節にはご協力お願いいたします。また、毎年のことですが賠償責任保険と園児保険はどうか加入しておいてください。「飯行こう 相手にされず ほっち飯」になりませんよう、大会当日はお誘いする機会もあろうと思いますが、私めも含めすべての方に振られませんかよう、お願い申し上げましてペンを置きます。

今回の言葉 感謝のない人に運は巡ってこない、行くぞ! 1、2、3、私保連

こちらでは「新人園長の紹介をお願いします」といわれました。この業界に身を投じたのがS63年でした。業界的には横のつながりがあり「南部と中西部がお手伝いする総会は何か起こる」と言われていました。あれから30数年、ずいぶんこの団体も変わったように思います。熱さと言いますか、思いと言いますか…。私は若いときから青年会議に所属し活動していました。青年会議初代会長は増田岡崎保育所長でした。以来市橋育英園長、佐々木みのだ園長、前川南佐古保育園長、岸二葉保育園長、私、若松こども園長、阿部先生…だったのではないかと記憶しています。部員数が11名となり存続の危機を問われましたが、いろいろな活動に取り組み在会中26名と増えたことはいい思い出です。先月(R4.6月)の総会時の2次会で若い世代が集まっている姿を見ると嬉しく思い、10千円渡してしまいました。私は県外の養成校で資格を取りましたが、保育所に入職する際まだ「保育士資格」というものはありませんでした。まず、先代から与えられた本は3冊でした。会計は宮内先生、保育は〇〇、給食は〇〇でした。ずいぶん冷たいもので「わからなかったら聞け」と一言。「〇〇がわからない」と聞くと「調べてからわしに聞いているのか」と言われました。会計はパソコンなどありませんでしたから、手書きで伝票をおこし仕訳し試算表を作っていました。当時、大和会長から頂いた試算表(機械打ちされたもの)は今でも残っています。保育では「お前は何しよんな。意図を言ってみろ」と聞かれ、ピアノは弾き、給食の準備や後片付け、おしめ交換、清掃、製作物などをして、日誌や連絡帳は必ず主任と2人でチェックし、直されました。栄養士が休むと主任と洗いもの…など毎日注意指導されながら仕事しました。初めての指導監査のとき行政マンに対して「私の息子が会計した。しっかりチェックして公金の在り方を説いてほしい」と言い、いろいろ細かいことを聞かれました。知らないことが多く悔しかった。でも、そのおかげで法律・法令、府省令、通知・通達、事務連絡の意味を知ることができました。また、ある時は「〇〇を聞いてこい」と言われ、出向き指導を受け帰って報告すると「お前は法人のこと考えているのか。そんなのは読めばわかる。法人のためになることを聞いてこい。もう一回聞いてこい」と注意され再度出向き「でも、〇〇って駄目でしょうか?」などずいぶん相手に食い下がったことが思い出されます。よく注意され怒られました。初めて県外出張に行ったのは日本保育協会の合宿研修でした。全国から集まった知らない人と5名1組で寝食をともに3泊4日過ごしました。とても緊張し嫌になりかけましたが、深夜一人温泉に入っていると当時の研修部長が後から入浴され「厚労省のこと、行政のこと、保育の歴史」など講話してくださり、本当に有り難かったことが思い出されます。何回も研修会に参加するようになると向こうも顔を覚えてくれ「で、いつ日保に入るの」と尋ねられたこともいい思い出です。初めての研修会で「ラーメン食べに行こう」と言われ、食事を終えお金を支払おうとすると先輩の園長先生が「いいんだよ。自分がその立場に立った時に下の者の面倒を見てあげるんだよ」と…。県内の園長先生ではやはり若松前園長と岡崎保育所長です。面白いエピソードも数ありますが、スペースの関係上割愛します。青年会議ではやはり佐々木みのだ前園長、南佐古前川園長とはよく3人で行動しました。その後佐々木先生が勇退され、前川先生と「子どもの育ちや青年会議のこと」を論じました。今では信じられませんが、青年会議総会には県が行政説明してくれお酒をともにしました。そんななか我が法人においては「施設整備」という話が持ち上がってきました。現地に何回も出向き、県・市町村と打ち合わせし、平成11年3月施設が完成しました。書類は手前みそなが

幼児の豊かな生活環境をめざす 徳島チャイルド社

電話 **088-674-6050**
FAX **088-674-8336**

〒779-3234 名西郡石井町石井字白鳥230

子どもにやさしい地球を残そう

ひかりのくに徳島有限会社

〒779-3404 徳島県吉野川市山川町川田869-4

TEL 0883(42)2220

FAX 0883(42)6300

〒770-0035 徳島市南佐古5番町2-37

TEL 088(652)0350

FAX 088(655)9066



ら私が主に対応しました。担当は皆さんご存知のKさんでした。意味が理解できず厳しく注意されたこともありましたが、嬉しかったことは福祉医療機構とのやり取りのなかで「先生はどうして行政を理解しているのか？」尋ねられたり、前述したKさんから3月31日電話があり「先生のおかげで徳島県の株が上がりました」との言葉を頂戴しました。一回青年会議で「施設整備講習会」を企画しましたが、県へ出向くと「〇〇の説明はきちんとしておいて」と言われました。平成15年憧れの日本保育協会へ入会、19年より青年会議長を1期務め「20周年事業」を開催したことは良い思い出です。が、今から10年前より「保育士不足」と「新制度」という新たな問題が生まれました。25年から処遇改善手当、27年度には「子ども子育て支援新制度」、29年には「社会福祉法人制度改革」、30年には幼稚園・保育所・認定こども園の「トリプル改訂」があったことは皆様の記憶のとおりです。これからこの業界は「誰もが経験したことのない少子化問題」に邁進します。「人は過去の歴史から学ぶもの」ですが、その部分は通用しません。保育所の多機能化も一案でしょうが、結局入所者数によって決まる「現員現額制」が問題だと考えます。長文となりましたが、皆様とともに「児童の健全育成に寄与」できるよう、「何より子どもが一番大切な社会」となりますよう、さらには次年度に迫った全国大会が成功裏に終わりますよう、祈念しましてペンを置きます。これからも希望福祉会ならびにのぞみ保育園に対し、倍旧のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
(のぞみ保育園)

広報部

笹 奈美

広報部会の活動を報告させていただきます。この度、「私保連とくしま」の発行に際しましてたくさんの方々にご尽力を賜り、第39号発行の運びとなり、徳島県未来創生文化部 次世代育成・青少年課 課長 高島様、私立保育園連盟会長 大和様をはじめ、徳島文理大学短期大学部 保育科 准教授 山越明先生によります専門的な観点からの情報の発信をしていただきました。また、各園の取り組みや各関連機関の情報等をお伝えすることが出来ましたことを感謝いたします。原稿検討会につきましては、役員でのメールや電話を活用してのやり取りに加え、2月8日に参集して、行いました。いただいたご意見を参考に、コロナ禍で活動が実施しにくいことに配慮し、今号より、「ブロックだより」の掲載は見送り、検討することとなりました。

2023年のカレンダーの発行に際しまして、子ども達の「まけまけいっぱい笑顔」の写真提供にたくさんの園からご協力いただきました。ありがとうございます。おかげさまで、見ていると思わずほほえみたくくなるような、幸せいっぱいのカレンダーが出来ました。様々な問題で、心悩ませる世の中ではありますが、子ども達の笑顔が絶えることの無いよう努めていきたいと思っております。

また、「全国私立保育研究大会 徳島大会」に向けての資料制作班としての取り組みでは、スタッフのユニホームや当日の「お土産」などについての検討会を行いました。大会が無事開催されますことを願い、資料制作班としての役割を果たしていきたいと思っております。

最後に、これからも広報紙を通して日々の保育に役立てていただけるような情報を発信していきたいと思っています。広報活動に対するご意見、ご要望等ございましたら、広報部までお寄せくださいますようお願いいたします。

(出来島保育園)



フレール館

保育用品/キンダーブック/児童図書

株式会社フレール館 徳島支店

〒770-8007

徳島県徳島市新浜本町2-3-50 坂東新浜ビル3号室

TEL 088-663-6338 FAX 088-663-3396



こども環境の未来をつくる



ジャクエツ

徳島店

徳島市末広1丁目4-14

TEL 088-626-2110

FAX 088-626-2416



『子どもはチャレンジャー』

徳島文理大学短期大学部保育科 山越 明

私の家の家庭菜園は、休日にやってきた孫達のいい遊び場となっています。今日はその遊び場の様子を紹介します。子どもは大人の真似をしていろいろなことを身につけていきます。畑を耕して畝を作っていると、同じような道具を持ってきて耕そうとします。でも長続きはしませんから、しばらくすると畝の周りを走ったり、畝を飛び越えたり、畦から下の道へ飛び降りたり、石垣をよじ登ったりと小さな冒険をし始めます。静かだなと思ったらオケラにミミズ、テントウムシや青虫、蟻の巣などを見つけてじっと観察していることもあります。“子どもって遊びを見つける天才だな”とつくづく感じます。

その畑の一角にイチジクと柿の木があります。柿の木にはロープを、イチジクの木には平板をかけておくと、ロープにぶら下がったり、板をのぼったり滑ったり、工夫しながら遊び始めます。最初はうまくいきませんが、何度か手を添えて、見守りながらその感覚を感じさせてあげると、後は繰り返しチャレンジして、いつの間にかできるようになっています。板のてっぺんに立っては「ジージ！」ロープにぶら下がっては「ジージ！」と、なかなかゆっくりと畑仕事はさせてもらえませんが、子どもの頑張りについつい頬も緩みます。

最近、穴掘りに興味があるようです。最初に50cm程の穴を掘っておいたら穴を飛び越えて遊び始めました。何度も飛び越えて遊んでいるうちに、スコップを持って穴を広げ始めました。子ども同士協力をしながら一回り大きな穴にすると、また飛び越えて遊び始めます。1ヶ月もすると穴は1m程になり、それを飛び越えて遊んでいます。径が大きくなると失敗して穴に落ちることもあります。雨上がりでは滑ることもあり、今では落ちるのを楽しんでいるようにも感じます。

以前幼稚園長をしていたとき、散歩時に1m弱幅の用水を渡らせたことがあります。一人で跳べる子、手を添えて欲しい子、抱いて渡す子の三段階で渡ったのですが、一人で跳べると思ったのに落ち込んだ子が五人いました。一人で跳ぼうという気持ちは大切ですが、自分ができるかどうかを見極めることが生活する上ではより大切です。子どもはチャレンジャーです。色々なことに興味を持ちチャレンジする中で、様々な工夫や今の限界を体験し、自分のできることが確立していきます。



徳島県青年保育者連合会 令和4年度 青年会議活動報告

徳島県青年保育者連合会 会長 大和 友就
青年会議 部長 大石 智弘
日保協担当 部長 盛 利彦

一度落ち着きを見せた新型コロナウイルス。インフルエンザの猛威と共に、感染が再浮上してきており、皆様の園におかれましても、感染症対策・活動や行事の自粛が続いている観点から、子ども達にも様々な影響が出ているかと思われます。

しかしながら、登園して来る子ども達は、「おはよう～」と元気いっぱいの声をかけてくれます。子ども達の声は元気の源。“がんばろう”と思う気持ちが湧いてきますよね。

さて、今年度の当会の活動報告として、感染症対策を万全にし、4月に対面式の総会を、グランドパレス徳島において実施し、第1号議案から第5号議案（2021年度事業報告、収支決算、監査報告、2022年度事業計画、収支予算、その他会員状況）について、採択されました。

また、12月15日にグランドパレス徳島において、中四国青年保育者合同勉強会を開催し、“保育の未来について”講師に新保雄希氏を迎え、これからの保育について勉強会並びにディスカッションを行い、研鑽した次第です。

「全国大会」

令和4年10月27日28日に開催されました、「第41回全国私立保育連盟青年会議愛知大会～みとめ愛ち～」では、徳島県青年保育者連合会から多数の先生方が出席して頂き、研鑽し、また来年開催されます、全国保育研究大会徳島大会についてPRを行ってきたところです。参加して頂きました先生方におかれましては、大変ありがとうございました。



また、第42回私立保育園連盟青年会議全国大会については、令和5年11月1日2日、JMSアステールプラザ・広島国際会議場において開催予定となっております。皆様方と共に参加できることを願っております。



園と園児のリスクに漏れなく備えていますか？

園経営には、さまざまなリスクが伴います。公益社団法人全国私立保育連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん・こどもえんのほけん

4月1日～1年間
(中途加入可能)

「園賠償責任保険(新型コロナウイルス等対応費用補償特約付帯)」「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険)」など、園経営における従来のリスクに加えて新型コロナウイルス感染症にも対応する保険をご用意しております。

やくいんのほけん

8月1日～1年間
(中途加入可能)

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクとレピュテーション(風評被害)リスクに加えて雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプションで対応する保険となります。

上記以外にも、「学童保育」などの保険も取り扱っております。

まずは**有限会社ゼンポ**まで
お気軽にご相談ください！

TEL **03-3865-3881**
FAX **03-3865-2806**

〈連絡先〉

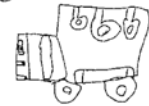
公益社団法人全国私立保育連盟指定
東京海上日動火災保険株式会社代理店
〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内

有限会社ゼンポ
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉

東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 文教公務室
TEL 03-3515-4134

このご案内には施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険(レピュテーション費用特約条項付・費用・利益保険)・雇用関連賠償責任保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。



連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定 / 東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL **03-3865-3881**
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館4階

子どもの育ちが見えれば、明日の保育がもっと豊かに！

全国私立保育連盟推奨(総代理店)

導入費用
無料



きっずノート

「きっずノート」は、文字だけでは伝えきれない園での豊かな活動、子どもたちが自ら学び・育つ姿を「見える化」するアプリです。

保育者の
業務
省力化

子どもの
学び・育ちの
見える化

緊急時の
連絡手段

正式利用お申込みの全施設

最大9ヵ月

利用料無料!

契約更新後も料金そのまま!

年間一括利用料6万円

利用しやすい価格に
なりました!

ひと月
あたり **5,000円**
(税別)

※ただし、事業者利用規約の定めにより、将来において利用料金に変更になる可能性があります。

詳しくはお問い合わせください。

<担当者:菅沼、佐藤>



いただきますを支えて

いしいキッズ 主任保育士 別宮 知子



いしいキッズは、0・1歳児定員45名の乳児保育園で、給食は業務委託しています。常に担当保育士は、保護者や栄養士、調理員と連携して、一人ひとりの発達や体調に合わせて美味しい食事が提供できるように心がけています。離乳食では、家庭で食べた食材を確認し、咀嚼に合わせたきめ細やかな調理をしています。食育への取り組みとして、環境づくりを大切にしており、背中にクッションや足元に台を入れるなど安定した姿勢で座り、自分で食べる意欲や喜び、しっかり活動してお腹を空かせて美味しく食べることを心がけています。

今年は、旧砂場を利用し、さつまい芋作りに挑戦しました。暑さに負けず育ったさつまい芋を園児が収穫し、クッキングしました。お芋を焼いてひと口食べると「おいしい」「おかわり」の声が聞かれ満面の笑みが見られました。

保護者には、食育だよりを通じて簡単な朝食や園児の好きなメニューの作り方を紹介し、忙しい子育て中にも食事に興味を持つ取り組みを行っています。

これからも職員一人ひとりの食に対する意識を高めて、食べる楽しさや意欲を育んでいきたいと思ひます。



1) さつまい芋掘り お芋みつけた!



2) みんなで掘ったさつまいも 美味しいね〜♪



3) 行事食 クリスマス会



4) 美味しい給食 食べようね♪

第65回全国私立保育研究大会徳島大会 分科会事前打ち合わせ会を開催

第65回全国私立保育研究大会徳島大会における分科会事前打ち合わせ会を第Ⅲ群は11月8日（火）に県立総合福祉センターにて、第Ⅰ群は11月17日（木）、徳島グランヴィリオホテルにてそれぞれオンラインで開催いたしました。

分科会事前打ち合わせ会では、提案者、助言者、座長、幹事の皆様にご参加いただき、提案内容の確認、スケジュールや当日の運営などを確認し、11月17日の打ち合わせ会は鳴門教育大学教職大学院 湯地宏樹 教授に大会テーマである「子どもの笑顔∞まけまけいっぱい～子どもが真ん中の社会を目指して～」と題し、講演をいただきました。また、会場に御出席された全国私立保育連盟の役員様、第66回開催の栃木大会の皆様と交流会を行いました。交流会では懇親会班による「トクシマを知ってトクシマしよう！」のクイズのほか、シンガーソングライター福富弥生さんに歌とピアノ演奏を行っていただきました。

いよいよ本年の開催となり、会員施設の皆様には大会までの準備や打ち合わせなど大変にお世話になりますが、大成功の大会となりますよう御協力のほど何卒よろしく願いいたします。



徳島県私立保育園連盟のホームページが
リニューアルされました。



高校ほか、学生の皆さんへ 保育園で働きませんか？

フレッシュ新任保育士さんから

育英認定こども園 保育教諭 伊丹 杏咲香

今就職している育英認定こども園は15年前に卒園した場所です。私はその時から、年下の子と話をしたり遊んだりすることが好きでした。中学生の頃、職場体験でどこに行きたいか問われたときに「絶対育英認定こども園に行きたい！」と思い、体験に行かせていただきました。そこで子どもと遊ぶことの楽しさや先生方の姿にあこがれを持ち、子ども達と関わる仕事に就くことを本格的に夢見るようになりました。

その後短大を卒業し、夢だった保育士になることができました。初めは、子どもとのコミュニケーションの取り方すらうまくできず、どうしたらいいのか悩む日々が続き、保育士は、子どもと関わって、楽しい！というだけでないことを強く実感しました。でも、その中で先輩方のアドバイスで、悩んでいたことも子ども達の笑顔や「先生大好き！」という言葉一つで「もっと頑張ろう」という気持ちにさせてくれました。入社してもうすぐ一年が経ちますが、子どもが冗談を言って笑わせてくれたり、「昨日公園行って遊んだんじょ～」と日々の出来事を話してくれたりなど、子ども達と様々な関わりを持つことでやりがいを感じています。これからも子ども達と一緒に過ごしていく中で、たくさんの思い出と幸せを日々感じていきたいと思っています。



—編集後記—

新しい年を迎え、早いもので2ヶ月が過ぎようとしています。子ども達と春の七草を探しに田んぼや畑に出かけると、畑の野菜が寒さに耐えながら、それでもしっかりと大地に根を下ろし生きています。寒い朝、子ども達と畑に行き大根を収穫します。子ども達は「冷たいなあ」と手に息を吹きかけながら大根を抜いています。畑から持ち帰った大根を水で洗って調理室に届け、給食でいただきます。「畑の大根っておいしいな」と子ども達が話しています。子ども達と一緒に旬の野菜や食材をいただけることに感謝し、厳しい寒さに耐えて春を待つ、野菜や上勝の草花や木々のように、強くたくましく生き抜く力を育みたいと思っています。

さて、コロナ禍の生活になって、4年目になりましたが、ようやく5月には大きな転機を迎えるようです。子ども達の健康管理を第一に考え、「保育を止めない」工夫と努力そして保護者との連携を日々考えながら保育を行ってきました。そのような中で、他府県において、不適切な保育が行われていたり、脅迫メールやFAXが日常生活を脅かしたり、と感染症だけでなく問題が起こっています。

「全て児童は、児童の権利に関する条約にのっとり適切に養育されること、その生活を保障されること、愛され保護されること、その心身の健やかな成長及び発達並びにその自立が図られることその他の福祉を等しく保証される権利を有する」とあります。(児童福祉法 第一章 第一条) 今一度、どのような状況下においても、「子どもの最善の利益を考慮し福祉を積極的に増進することにもっともふさわしい生活の場であればならない」という保育所保育に関する基本原則に立ち返り、日々の保育を行いたいと思っています。

「私保連とくしま第39号」は、今回も無事発行することができました。

発行に当たり原稿や写真を執筆、提供下さいました皆様に感謝申し上げます。

広報部では、この「私保連とくしま」から、皆様にとって興味関心のある記事を発信していけるよう努力して参ります。どうぞこれからも、様々なご意見やご寄稿をいただきますようお願い申し上げます。

(谷口 恵美)

お詫び

総務部の松下部長の園長就任挨拶につきまして、私保連とくしま 38号にて掲載すべき内容が掲載できておらず、本号での掲載となりましたことを深くお詫びいたします。